

「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における実践研究報告書

宮城県松島高等学校

I 学校所在地の災害特性及び地域連携に係る現状等

【学校所在地の災害特性】

校舎の立地は高城川流域に位置し、松島町の作成したハザードマップでは、職員駐車場の入口近くまでの浸水が予想されている。一方で、隣接する第一グラウンドや、駐車場の入口付近を除く敷地内は、高低差の関係で浸水域からはずれており、敷地内の一番奥側にある体育館は、地域住民の避難所に指定されている。観光科の学習活動の一貫で観光地のボランティア・ガイドを実施しているが、松島観光の中心地であり、海に直接面しているため、地震の発生とそれに伴う津波に関しては特に警戒を必要としているエリアである。

【地域連携に係る現状】

観光科は、松島町観光協会の協力を得て、年に2回、観光地でボランティアガイドをしている最中を想定した避難訓練を実施している。校舎周辺の高城区の住民と連携した避難訓練は、平成24～26年に3回だけ実施されているのみである。

II 取組状況

1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

【松島町・高城区・松島高校の合同防災会議】

昨年度から始めた松島町・高城区・松島高校の合同防災会議を、今年度も実施した。町役場の防災担当・高城区長・松島高校防災主任の3人を基本とし、学校防災アドバイザー等にも参加していただきながら実施をした。会議の日程及び内容（概要）は以下の通り。

○第一回 R6. 4. 15 ○第二回 R6. 6. 19 ○第三回 R6. 8. 26 ○第四回 R6. 12. 16 ○第五回 R7. 2. 3

- ・前年度から変更となった担当者（防災主任）の顔合わせ、昨年度の取り組みの共有
- ・高城区の地理的特徴・歴史・人口・過去の災害の被害などの説明（高城区長より）
- ・学校の正門・体育館の合鍵の引き継ぎの流れの確認（文書にて合鍵所有者の情報共有）
- ・学校・松島町・高城区それぞれの防災訓練の日程や内容の確認、連携方法の相談（町の総合防災訓練では、本校1学年の防災に関する探究ポスターを展示した）
- ・月1回の松防タイムの具体的な実施日程や方向性の共有（高城区長への講話依頼など）
- ・総合的な探究の時間の中で、高城区長に過去の災害について講話をいただけないかの相談
- ・学校で実施の防災学習（11月）への参加について地域の方に呼びかけを依頼
- ・町の防災担当者から教職員向けに「松島町の災害特性」について講話をいただく相談
- ・防災訓練や、防災学習について実施の様子を共有し、来年度に向けての改善点の話し合い
- ・応急危険度判定士による災害時の施設点検についての相談
- ・本校体育館を避難所として使用する上での設備面での要望について相談（後の会議で進捗確認）

【高城区・松島高校・松島町の合同防災訓練】 R6. 9. 15（日）9:00～12:00 実施

上記の合同防災会議に加えて、2度の打ち合わせの中で実施内容や当日準備物の確認、住民向け

チラシの確認などを行った上で実施した。

第一回 R6. 8. 21 高城コミュニティセンター（町役場担当、高城区長、女性防火クラブ代表）

第二回 R6. 9. 10 松島高校体育館（高城区長、松高防災主任）

当日は地域住民約50名が参加し、①体育館の設備確認、②避難者名簿記入の確認、③AEDの使い方の説明（松島消防署より）、④防災クイズ（高城女性防火クラブより）等を実施した。

訓練実施後のアンケート結果は以下のとおり。

質問 災害発生時における地域と学校の避難対応について、共有をはかることができたか

共有につながった：21名 概ね共有につながった：14名 あまり共有につながらなかった：0名

記述 「実際に避難するとなると不安が残る」「近所に一人暮らしのお年寄りが多いので少し心配」

2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

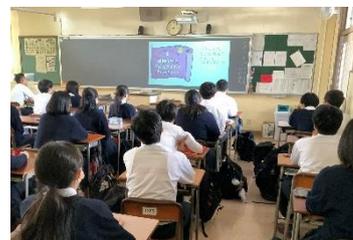
【まつしま防災学への本校生徒の参加】R6. 6. 6（木）松島中学校

2014年度から、東北福祉大学と松島中学校の連携のもとに始まった「まつしま防災学」では、中学生が防災・減災について学び、その後小学生に対して学んだ内容を指導するという活動が実施されていた。昨年度から、中学生が防災・減災について学ぶ時間に本校生徒も数名（今年度は5名）講師として参加し、小中高の連携を図ることができた。



【松防タイム】

防災意識の向上と、地域に住む方を身近に感じる、という2つの目的に向けて月1回の朝の防災学習を実施することとした。本校では、もともと朝読書の時間が10分間設定してあったため、その時間を活用した。合同防災会議でのつながりや、本校観光科の取り組みでつながりのある方に講話を依頼し、高城区長・町役場防災担当者・観光協会会長といった地域の方から松島町の災害特性や過去の災害での松島町の被害、現在の防災の取り組みについて話していただいた。また、防災に関するクイズを実施したり、部活動ごとの避難訓練に向けた事前学習として活用するなど、講話以外の形式でも防災学習を行うことができた。10分間という限られた時間で完結させられるように、事前に動画を撮影して各教室で流す形式をとった。月1回の実施ではあるものの、生徒の防災意識の向上につながったと感じる。



【DIG（災害図上訓練）】R6. 9. 12（木）5・6校時 3学年観光科対象

松島観光協会会長と町役場防災担当者をアドバイザーとして招き、DIG（災害図上訓練）を実施した。はじめに、松島町の地図を使用して各グループで観光地の地理的特徴を確認した上で観光ガイドコースを設定し、その後実際に観光ガイドの途中でさまざまな災害が発生した想定で、どのように対応するかをリアルタイムで話し合う訓練を行った。生徒たちは、状況に変化に苦戦しながらも、過去のガイド実習の経験なども踏まえながら対応策を考えようとしていた。



3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

【部活動中の災害を想定した避難誘導訓練】R6. 11. 8（金）5校時

部活動中の災害を想定して、各活動場所からの避難誘導訓練を実施した。各教員には、担当する部活動の活動場所からの避難経路を考えてもらい、避難誘導を行ってもらった。実施後の反省で

は、「避難経路について」「放送の聞こえ具合について」「点呼の取り方・取る場所について」「避難誘導訓練の実施形式のアイデア」など、さまざまな意見をいただくことができた。普段と違う形式で実施したからこそ多くの課題に気づくことができた。

【教員の防災力を高める研修】R7.1.31～2.1 防災主任

令和7年1月31日：熊本県防災センター、熊本城

2月1日：北淡震災記念公園、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

熊本県では、地震や豪雨による被害や、被害状況の早く正確な把握の重要性を学んだ。兵庫県では、地震のエネルギーの大きさを実感するとともに、避難所生活の大変さについても学んだ。

4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

【通学経路における緊急指定避難場所を調べる】R6.6.7（金）6校時 全学年生徒対象 各教室
国土地理院のホームページを用いて、「緊急指定避難場所」を調べた。最初に緊急指定避難場所と指定避難所の違いを学び、本校グラウンドや体育館がそれらに指定されていることを学んだ。その後、自分の自宅付近や通学経路における「緊急指定避難場所」を調べる活動や、本校体育館が指定避難所として開設される場合に高校生として何ができるのかについて考える活動を行った。

【避難所運営について学ぶ】R6.11.8 6校時

1・2学年 東日本大震災当時の避難所の状況を学び、ワンタッチテントの設営・収納の体験を通して、避難スペースを実感するなど避難所生活をイメージできるような活動を行った。

3学年 避難所運営において想定されるトラブルの対処法をグループで考えることを通して、避難所生活をイメージしたり、他者と意見交換することの大切さを学ぶ活動を行った。

【被災地訪問学習】R7.1.17（金）1学年普通科対象（1学年観光科は別事業で気仙沼方面を訪問）

目的：被災地を実際に訪れて実際に起きた震災の被害を体感し、避難行動への意識を向上させる。

訪問先：石巻南浜津波復興祈念公園「みやぎ東日本大震災津波伝承館」・日和山公園

当時の記録を確認できる伝承館の訪問と、東日本大震災時に住民の多くが避難した日和山に登る活動を行った。事前学習で、石巻方面で震災を居経験した本校教員から当時の様子を教えていただいたり、生徒自身に調べさせたりして、施設の見べきポイントを確認した上で訪問した。生徒たちは、実際に高台に登ることで津波の脅威を実感しているようであった。

III 取組を通じた成果と課題

【成果】

○合同防災会議を重ねることで、地域、行政、学校の担当者間で「顔の見える関係」を構築することができ、お互いに連携・協力の相談をしやすい関係作りができた。また、年度初めに合同会議を設定することで、担当者が変わっても関係を継続できるような仕組みを作ることができた。

○月1回の朝の防災学習を設定することで、生徒が防災について考える機会を増やすとともに、地域住民とのつながりを実感できるような取組を行うことができた。

○一昨年よりも防災学習の機会を増やすことができた。また、避難訓練でもこれまでとは異なる想定で実施するなどして、新たな課題を発見することができた。

【課題】

○実際に災害が起きたときに連携するためには、教職員・生徒と地域住民と間での「顔の見える関係」の構築も必要であると感じる。

○地域の小学校や中学校との連携体制の構築（防災マニュアルについての共有、意見交換など）も必要であると感じる。